愛のある知性を。

宮城学院女子大学

MG-LAC

2024年度 活動報告

MG-LAC
（宮城学院女子大学リエゾンアクションセンター）

地域と連携し、
学生の自主活動をサポートします。

宮城学院女子大学は、地域社会連携し、学生の自主的・実践的な学び、社会貢献の場を提供しています。LAC（リエゾンアクションセンター）の「Liaison」（リエゾン、連携）という言葉には、学生が教員と、大学と地域がつながり、協働して活動を創っていくという願いが込められています。学生は大学での学びを活かし、自主企画活動やボランティア活動など、多彩な活動を展開しています。宮城学院女子大学の学生による自主活動への取り組みは、「大学基準協会」から最高ランクＳ判定をいただいています。

MG-LAC（リエゾンアクションセンター）

MG-LAC は、大学での学びを活かした学生のプロジェクト型自主活動を支援します。

学生が自主的に企画・運営するプロジェクト活動

MGSS

英文学科　３年　今野 莉来

MGSS では様々な活動を行ってきました。イオンモール新利府では子どもたちを対象とし、かけっこコースのブースを出店しました。３５０名を超える子どもたちが参加しました。スポーツボランティアの活動を通じて、多くの貴重な経験を得ることができました。特に、参加者からの感謝の言葉を直接聞いたときは、大きなやりがいを感じました。また、自分の行動がイベントの成功に貢献していることを実感し、責任感も高まりました。今後もこの経験を活かし、スポーツを支える立場として積極的に関わっていきたいです。

@miyagaku_mgss

桜ヶ丘古文書プロジェクト

人間文化学科　４年　小野寺 那南

宮城県内でも数多く残されている古文書ですが、頻発する災害や当主の代替わりなどによって、消滅・散逸の危機に直面しています。そのような古文書を中心とした地域の文化財の保全活動に携わっています。古文書の保全は、活動自体があまり知られていないため、まずは古文書の魅力を多くの方に知ってもらうことが必要だと考えています。今年度は講演やポスター掲示などを通して、学外に活動を広める機会を持つことができました。遠いようで身近な歴史に触れ、宮城学院のルーツを後世に遺し伝えていく作業に携わっている、ということを実感しました。

@sakuragaoka_komonjyo

小さな図書館プロジェクト

日本文学科　３年　佐藤 楓月

前年度から継続している大学校内と商業施設ブランチ交流スペース内に設置した本棚の運営のほか、今年度は、まちづくりスポット仙台に協力いただき、泉館山高校図書委員会の方と共同でイベントの企画運営を行いました。本棚運営では、月に二回本の入れ替えと整理、定期的に装飾の変更をしました。イベントの企画運営では、絵本セラピストの松村さんをお招きしての絵本セラピー、泉館山高校さんと共同企画した絵本の読み聞かせ会、推し本・ＰＯＰ作成など一年をとおしてイベントをすることができました。イベントのほか、定期的なミーティングなどで、高校生のみなさんと交流をすることができました。

@LFL_mgu　@lfl_mgu

にじいろプロジェクト

教育学科 健康教育専攻　２年　千葉 薫子

新型コロナウイルスの影響により活動の規模が縮小してしまっていたため、活動方針についてなど話し合いの時間を多く設けました。これまでの活動の中で各々の知識不足を感じることがあったため、今年度では勉強会を企画しLGBTQ＋に関する時事的なニュースや用語を学ぶ時間を作りました。大学祭ではメンバーが企画を一から考え、準備から当日の運営、撤収作業までの全てを担いやり遂げることができました。活動の中で、LGBTQ＋に関する知識だけでなく集団で一つの目標に向けて努力することの楽しさや難しさなど様々な経験をすることが出来ました。

@niji_niji_mgu

Sp ⓡ t A You

食品栄養学科　３年　太田 陽菜

今年度はスポーツ団体のサポートの継続をしつつ、新加入してくれたメンバーが多かったため、SAY内での活動を行い、スポーツ栄養に触れる機会を増やしました。また新たに、いずみ絆プロジェクトのまちづくりスポット仙台での活動を始め、１年通して数回栄養セミナーを行いました。活動を通してスポーツ栄養の重要性を改めて認識しました。特に対象者に合わせた栄養指導や食事提供を行うことで、パフォーマンス向上や健康維持に貢献できることを実感しました。来年度もサポートの継続を行い、その中で全員が主体的に行動し、より良い栄養サポートはどのようなものか、どうしたらよりわかりやすく指導できるかなど勉強できる機会を増やしていきたいと思いました。

@say_mgu

楽食プロジェクト

食品栄養学科　３年　板橋 里瑛

新年度が始まる４月に新規メンバーを獲得するための広報活動やビラ配りなどを行う予定でしたが動き始めが遅かったので、先を見据えて計画的に行動しないと目標を達成することが難しくなってしまうことが分かりました。後期は２年生へ引き継ぎが十分に出来ず、フェアを予定通りに実施することができませんでした。反省点もありましたが、毎回のフェアで提供したスイーツは特に売れ行きが良かったのは提供商品の選択と実際に作ったスイーツの完成度が高かったからだと考えられます。「秋の旬フェア」等、昨年度とは違うフェアを開催できたことで、学生食堂を利用する方の楽しみの１つとなることができたのではないかと感じました。

@mg_gakushoku_p　@gakushokuproject

Heartful Sweets

食品栄養学科　３年　石井 颯希

今年度「ドナルド・マクドナルド・ハウスせんだい」では、毎月お菓子作りとレシピカード、アンケート作成を行いました。お菓子作りでは、アレルギーフリーのレシピを考案し、試作や当日の制作を実施しています。レシピカードは、イラストを描き、材料と作り方、栄養価表示とアレルゲンを記載しています。カードやお菓子は利用者の方々の心の癒しになっていると施設の方からお言葉を頂くことが出来ました。また、森のこども園の児童クラブのこどもたちとお菓子作りをしました。今年度は「米粉のドーナツ」を作り、楽しく活動することができました。お菓子作りを通して作る楽しさ、食べる楽しさを経験してもらい、食育に繋がる活動になったと思います。

@heartful_sweets

国際支援活動 Triangle

人間文化学科　３年　中村 南水・佐藤 陽菜

今年度、私たちは主に食を通じた国際支援活動を行いました。特に、学生食堂とのコラボレーションによる TFT（Table For Two）フェアの企画では、ヘルシーメニューを考案・提供し、その売り上げの一部を寄付する取り組みを実施しました。今年の TFT フェアも例年通り２日間行うことができ、多くの方に食べてもらえて嬉しかったです。本学がキリスト教主義の大学であることから、今年のテーマを絵画の『最後の晩餐』とし、それに登場する料理を基に TFT フェアのメニューを考えました。このようなテーマ設定は初の試みでメニューを決めることが難しく感じましたが、無事開催することができて良かったです。

@Triangle_mgu　@Triangle_mgu2024

MGPR

現代ビジネス学科　３年　小野 響

今年度は過去最大人数である４３名という大人数で活動しました。高校生の時に MGPR の先輩の姿を見て MGPR に入ったというメンバーが多く、日々の活動を続けてきて良かったと感じました。オープンキャンパスでは、「キャンパスツアー」「トークライブ」「展示」などを企画・運営し、来場者の方に寄り添いながら本学の魅力を学生目線で伝えてきました。また今年度は、ラジオ出演や外部イベントへの参加を行い、多くの方に MGPR を知っていただけた一年だったと思います。学年関係なく、コミュニケーションを積極的に図るため、ミーティングや研修等を行い、互いに成長し合いながら活動することができ、とても楽しく充実した時間でした。

@MgprMgu　@mgu_mgpr

Food and Smile!

食品栄養学科　３年　赤間 響

今年度、私たちは「防災レシピカレンダー 2025」の作成を行い、完成させることができました。このカレンダー企画では、Food and Smile! に加えて様々な外部の方からの協力をいただきながら活動を行いました。防災食を使用し、災害時に実際に調理できることを想定しながら、大学内での試作やミーティングを繰り返し重ねていき、出版という形にすることができました。ラジオの出演では、２か月に１回の頻度で「NHK ラジオ Nandary」にて、調理の実演を行いました。防災講座・料理教室への参加では、地域のボランティア団体主催のイベントで、防災食レシピの一緒に調理を行いました。どちらの活動も Food and Smile! が考案した防災レシピをさらに知っていただくきっかけとなりました。

@mgu_fas

STUDY FOR TWO

人間文化学科　2年　堀 恭子

春の新入生歓迎会では多くの1年生に興味を持ってもらうことができ、14名の新メンバーを迎えることができました。また、春の教科書販売では昨年を大きく上回る販売実績をあげることができました。また、全国のSTUDY FOR TWOの合宿に4名が参加し、他大学の仲間と意見を交わしながら、今後に向けて1人ひとりが新たな目標を立てることができました。冬のクリスマスを祝う会では学外の多くの方に文庫本や洋書を手に取って頂き、広報活動にも繋がりました。また、学期末の教科書回収では夏を上回ることができるようにと、繰り返しミーティングを行い、結果、夏の2倍以上の教科書を回収することができました。1年を通して、理念達成のために多くの仲間と協力しあえたことが何よりの財産です。

@study42MG　@study42mg

'olu'olu

英文学科　2年　北島 愛里

私たちは8月に、岩沼市立西保育園に行き4～5歳（26人程度）を対象に英会話教室を開きました。みんな興味津々に取り組んでくれたおかげで、私たちもスムーズに教室を進めることができました。初めてボランティア団体を立ち上げ、分からないことだらけでしたが、自分たちで英会話教室を運営し園児たちに英語を教えることができるのだという自信が付きました。しかし授業内容をまとめることの難しさや、実際の授業では計画通りに進まないことなど、経験不足を感じることも多くありました。来年度は月1回の活動が出来るように、定期的なミーティングも多く重ねていかなくてはいけないと感じました。

@oluolu_vol2024

Discover Your Own MIYAGI

教育学科 児童教育専攻　2年　髙木 希乃花

宮城の魅力を発信することを目的に、現地でのフィールドワークや地域のボランティア活動、さらには成果発表会の開催など、さまざまな活動を計画していました。宮城には美しい自然や歴史、文化、観光地など多くの魅力があるにも関わらず、否定的な意見を耳にすることがありました。宮城の良さをもっと多くの人に知ってもらいたいという思いから、このプロジェクトを立ち上げました。しかし、予定していた活動のほとんどを実施することができませんでした。思い描いていたような成果を出せなかったことは残念ですが、この経験を通じて、計画を実行に移す難しさや、チームで活動する際の課題を学ぶことができました。

@miyagaku_dyom

学内ボランティアクラブ

現在、宮城学院女子大学には３つの国際奉仕団体の学生組織があります。知見を広げ、社会で責任を果たし活躍する女性となるべく、活動しています。

ゴールデンＺクラブ　@mgu_goldenz

現代ビジネス学科　３年　髙橋 萌

私達ゴールデンＺクラブは、仙台Ｉゾンタクラブの学生支部として「女性支援」と「SDG's」を軸に様々な活動をしています。2024 年は、毎年活動している、非営利団体 LOOB とのフィリピン支援 (フェアトレード商品の販売) 活動や、昨年から新しく仙台市消防局の協力によって始めた防火防災を呼びかける学生クラブチームでの活動、そして仙台Ｉゾンタクラブとのボランティア活動に取り組みました。様々な事に挑戦しやすいサークルだと思います。そして活動から学びも得られます。とても良い刺激になるので、ボランティア活動に興味がある方に、ぜひ参加して欲しいです。

さくらレオクラブ　@sakura_leoclub　@mgu_sakura

現代ビジネス学科　２年　吉田 凜

さくらレオクラブは、仙台青葉ライオンズクラブを親クラブとした、世界最大の奉仕団体「ライオンズクラブ」の学生団体です。「みんなに寄り添い」「人を笑顔に」「地域を笑顔に」の３点を活動方針とし、様々なボランティア活動を行っています。昨年度に引き続き、仙台青葉ライオンズクラブさんからいただいたお米をフードパントリーとして学内で配布しました。また、病気や障がいを抱えたお子様とそのご家族すべてが演奏を楽しむ空間を共にする「プロジェクトスマイルコンサート」や、だれもが参加できるチャリティーイベント「バディウォーク」の運営のお手伝いをさせていただきました。今後も、地域に貢献できるような活動を続けていきたいと思います。

サークルＫ　@mgu.cki

教育学科児童教育専攻　２年　伊藤 妃奈

サークルＫは、一般社団法人仙台キワニスがスポンサーとなり、「子どもたちへの支援」を目的として設立された学生団体です。主に児童館での学習支援や子ども食堂の運営補助スタッフ、キワニスドール作製などのボランティア活動をしています。他にも少人数学校での行事の手伝いやチャリティーイベントでの出店もしています。児童と実際に関わる機会を通して、その子に合った声の掛け方や関係の築き方などを学び、経験を積むことができています。これからも児童教育専攻であることを生かした、子どもたちのためのボランティア活動をしていきたいと思います。

地域貢献への取り組み

地域における支え合いと協働の輪を広げる活動を行うことを目的とした仙台市泉区「いずみ絆プロジェクト」より助成を受け、教育学科健康教育専攻から青木ゼミと食品栄養学科より Sp ⓡ t A You（スポットアユー）の２団体が活動しました。

青木ゼミ

「教員を目指す学生と地域住民の交流プロジェクト～体力測定・運動遊びをきっかけとして～」

教育学科健康教育専攻の青木ゼミは、養護教諭や保健体育教諭を目指す学生が所属し、地域の子どもから高齢者まで幅広い年代の人々と体力測定や運動遊びをきっかけに交流し、生涯にわたる健康増進に寄与する活動を実施しました。

ボランティア活動報告

継続的にボランティア活動に取り組んでいる３名にインタビューをしました。

心理行動科学科　３年　成田 あすみ さん

宮城県警の「大学生による少年健全育成ボランティア」（通称・ポラリス宮城）に参加しました。この活動を通して、自分の住んでいる地域にいる小学生の登下校中の見回り活動や自分と同世代や家族にも身近な犯罪に注意が向くようになりました。闇バイトや詐欺の注意喚起を呼びかける街頭活動では、一緒に活動する他大学の学生や関係団体の方と協力しながら声を出して、たくさんの方にプリントをお渡しすることができ、少しでも犯罪抑止の力になれていたら嬉しいと思いました。ボランティアへの参加はとても勇気がいりますが、いざ勇気を出して参加したことは絶対に良い経験になります。どんな人でも誰かの力になれます。もし、参加したいと思う気持ちが少しでもあるなら、ぜひ参加してみてください。

人間文化学科　４年　山下 怜奈 さん

2024 年 2 月末に能登半島地震災害復興ボランティアとして珠洲市に行きました。元旦に発生した地震のニュースを見て大きな衝撃を受け、自分にも何かできることがあるのでは、と春休みを活用して参加しました。東日本大震災の経験を持つ身として、能登では復旧がなかなか進まない様子を目の当たりにし、過疎が進む土地での復興の遅さに心が痛みました。無力さを感じる場面も多かったのですが、子どもたちと一緒に遊んだり、炊き出しとその材料になる野菜の収穫作業を手伝ったり、日々を共に過ごす中で少しずつお話を聞いて寄り添うことができるようになり、被災者の方の小さな支えになれたのかもしれないとも思います。このボランティアを通してそれぞれに多様な活動に取り組んでいる学生たちと出会い、かけがえのない仲間として私の大きな財産になっています。

英文学科　２年　佐々木 凌 さん

定禅寺ストリートジャズフェスティバルの実行委員として本祭に向けて学生企画やグッズチームなどのイベント運営ボランティアをしています。以前吹奏楽部に所属していて音楽が好きだったことと、生まれ育った地域を盛り上げたいという思いで参加しました。企画段階では単にアイディアを出すだけでなく、実現に向けてかかる費用や観客層を考慮して計画する力と、それらを説明する力が身に付いたと感じています。ジャズフェスでは老若男女様々な人たちと関わるため、新しい視点や考え方を学ぶ機会が沢山あります。学生がチームリーダーを任されることもあります。どんな経験も無駄にはならないので、是非当日ボランティア (一日) からでも始めてみて欲しいです。積極的に関わって自分なりに大学生活を楽しんでみてください。

Sp ⓡ t A You

「成長期の女性アスリートを応援するプロジェクト」

食品栄養学科でスポーツ栄養に関心の高い学生が集まる Sp ⓡ t A You は、中高生の女性アスリートの健康問題に着目し、地域の中高生の健康な身体づくりと競技力向上に貢献するためピア・エデュケーションによって愉しみながら学ぶことができるセミナーを開催しました。

2024 年度自主活動トピックス

Heartful Sweets

お菓子づくりを通して、楽しくホッと温かい気持ちになってもらえるような活動を行っています。ドナルド・マクドナルド・ハウスせんだいで、毎月アレルゲンフリーのお菓子作りとレシピカードのほかに、今年は森のこども園の児童クラブと一緒にお菓子作りも行いました。

Food and Smile!

今年度で第 3 弾となる『みやぎ発防災レシピカレンダー 2025』の制作を行いました。災害時に限らず普段の食事でも簡単に作って食べてみたいレシピになるように考えています。

小さな図書館プロジェクト

今年度は、読み聞かせや“推し本”紹介、学祭への出店など、例年の活動のほかに新しい活動にチャレンジをしました。学外イベントでは小学生以下のお子さんと学生をそれぞれ対象に、学祭では学生以上の人を対象に本の紹介をするなど工夫をして取り組みました。

STUDY FOR TWO

学生から不要になった教科書を寄付してもらい、その教科書を半額以下で販売することによって、利益の 8 割を発展途上国に教育支援金として寄付する活動を行っています。全国にメンバーがいて、リモート会議や合宿などで意見を交換しながら理念達成に向けて活動しています。

◆ボランティア・各プロジェクトについてのお問合せは MG-LAC までご連絡ください。

宮城学院女子大学リエゾンアクションセンター（MG-LAC）

〒 981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘 9-1-1

TEL: 022-279-1340 FAX: 022-279-5876　E-mail: lacvolu@mgu.ac.jp